

平成 27 年度第 2 回鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会 会議録

運営協議会を次のとおり開催しました。

(敬称略)

協議会名称	鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会	
開催日時	平成 28 年 2 月 2 日 (火) 19 時 30 分～21 時 00 分	
開催場所	鎌倉市役所 第 3 分庁舎 講堂	
委員 出席者	医療法人社団柏綾会 綾瀬厚生病院 母子センター センター長	篠塚 孝男
	東京大学 医科学研究所 先端医療社会コミュニケーションシステム社会 連携研究部 特任教授	上 昌広
	あずさ監査法人横浜事務所	田坂 真子
	特定非営利活動法人 小児臨床研究支援ネットワーク 理事長	名取 道也
	弁護士	増本 敏子
	特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議 理事長 県立高校、私立高校非常勤講師「食」担当	渡邊 公子
医師会・ 市出席者	鎌倉市医師会 会長	井口 和幸
	鎌倉市医師会 副会長	高橋 博文
	鎌倉市医師会 理事 (産科診療所担当)	西尾 佳晃
	産科診療所 所長	高山 照雄
	鎌倉市医師会 産科診療所顧問	黒川 民夫
	鎌倉市健康福祉部長	磯崎 勇次
次回開催 予定日	平成 28 年 7 月下旬	
問合せ先	鎌倉市健康福祉部 市民健康課 健康づくり担当 電話番号 0467-61-3979	
会議記録	以下のとおり	

1 開会

事務局 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今より、平成 27 年度 第二回の鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会を開催いたします。出席が 6 名であり、過半数を超えておりますので、本協議会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告いたします。また、当協議会委員の任期は 2 年間で、今回の協議会はその節目となっております。改めて会長が選任される間、事務局で会議を進行させていただきます。よろしくお願いたします。

このたび各委員のみなさまにおかれましては、平成 28 年 1 月 28 日をもって任期満了となっておりますが、みなさまには鎌倉市医師会立産科診療所の運営についても今後も

ご審議をしていただきたく思っております。引き続きお願いさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。では、次に会長、副会長の選任・選出に入りたいと思いますが、大変僭越ではございますけれども、事務局としまして、前回に引き続き会長に篠塚委員、副会長に上委員と考えております。委員の皆様いかがでしょうか。

委 員 はい。よろしくお願いいたします。

鎌倉市 では、会長に篠塚委員、副会長に上委員にお願いさせていただきます。それでは会長が選出されましたので、この後の進行を篠塚会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

会 長 会長選出していただいたのですけれども、私この会、発足当時からずっと委員と会長を務めてまいりましたので、長いこと同じ私がずっと続けてやることは、決して良いことじゃないと思いますし、そろそろこの辺で、会長職を辞させていただこうかなと、思っただけです。私は産婦人科の医者ということもありまして、だいぶ私の意見を言わせていただきました。いろいろご迷惑かけたことと思いますが、お許してください。一応、この会だけとりあえず司会ということで運営させていただきます。

2 平成 27 年度第 2 回会議録確認

会 長 では、会の進行に当たり議事録の方は、お手元にすでに届いていると思いますけれども、何かご意見ございましたでしょうか。異論ございませんか。

鎌倉市 こちらのほうでは、ご意見等は頂戴しておりません。

会 長 そうですか。それでは今日の議題に移らせていただきます。

鎌倉市 それでは、議事録ですけれども、訂正がないということですので、こちら医師会のホームページに掲載させていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 平成 27 年度の運営状況について

会 長 それでは本日の議題は、大きく分けて 1・2・3・その他となっております。資料が 7 つほどございます。まずこの資料 1～7 までをご説明いただいて、それから討論にもっていきたく思います。では、資料の説明をよろしくお願いいたします。

医師会 産科診療所ティアラかまぐら事務長の安田です。説明をさせていただきます。

平成 27 年度の運営状況について資料の番号に沿ってご説明をします。まず資料 1、分娩件数についてです。本年度 12 月末までの件数といたしましては 165 件。前の年に比べま

すと、6件減になっております。住所別内訳といたしましては、市内が113人、全体の68.5%。里帰り出産が33人、全体の20%。市外が19人で、全体の11.5%になっております。ちなみに平成26年度は、市内が64%、里帰りが25%、市外が12%でした。今回の集計においては市内の方が若干増え、里帰りとし外が減っております。月平均にいたしますと、18.3分産です。帝王切開は17件で、月平均2件弱です。母親の出産時の年齢につきましては、開設以降の数字で、一番多いのは31歳から35歳で、42.1%です。続いて、資料2と3については。

鎌倉市 市民健康課長の曾根と申します。よろしくお願いたします。それでは、着席して報告させていただきます。引き続きまして、鎌倉市民の出産地域別割合についてご説明させていただきます。資料2をご覧ください。この資料は、市に提出されます出生連絡票を集計したものです。出生連絡票は、生まれ月ではなく、市に届出があった月で集計しているもので、未記入の方もいますが、出産動向は把握できるものと考えております。まず鎌倉市全体での出産状況ですが、平成27年12月末現在、850件で平成26年度の同時期の824件と比較しますと、26件増加していますが、この6年間では2番目に低い件数となっています。続いて平成27年度の出産した場所の状況で、市内3施設は850件中457件で、全体の約54%となっております。平成26年度同時期は、484件で全体の59%で、件数は27件、割合としては5%の減少となっております。また、県外での出産割合は17%で、ほぼ横ばいという状況です。市内だけの割合で見ますと、ティアラかまくらが平成27年度は約13%、平成26年度も約13%。湘南鎌倉総合病院は、平成27年度は約24%、平成26年度は26%。矢内原医院は、平成27年度が約17%平成26年度は19%となっております。ティアラの割合としましては、昨年度と同様ですが、湘南鎌倉、矢内原ともに割合が減少しており、藤沢市や逗子市、横浜市などの近隣市での割合が増加している状況です。

次に、資料3をご覧ください。この表は母子健康手帳交付状況や、ただ今ご説明いたしました出生連絡票の提出状況などを、ここ6年間の各年度で比較したのとなっております。下の方に記載されていますように、平成27年11月末の母子健康手帳の交付状況は、801件で平成26年度同時期の812件から11件の減少となっている状況です。資料2と3については、以上です。

医師会 引き続きまして資料4。分娩予約状況ですが、分娩予約のこの数字につきましては、転院等の予約キャンセル分を減じた形で記載しておりますので、参考としてご覧いただければと思います。

資料5に移ります。平成27年度の出産件数、見込の数字です。今年度残り3か月の予約件数、これは12月31日現在で51件でしたので、全て予定日通りに分娩に至る事になれば、本年度の出産件数は、216件ということになります。通常、転院等によるキャンセル分が1割弱ですので、それを差し引きますと本年度の見込みとしては211件というのが予想されます。なお、新年度の7月までの予約が今入り始めておりますので、前年

の同時期に比べますと、わずかですが、増えている状況です。

続きまして、資料6 外来件数等です。外来診療件数は、4,064件で、前年度と比較いたしまして7件の増となっています。その内訳は妊婦検診が3,192件、全体の78.5%、前年比1.5%減です。1か月検診は196件、全体の4.8%、前年に比べて13.7%の減。2週間検診は、163件、全体の4%、前年比+6.5%。母乳外来が171件、全体の4.2%、前年比+8.2%。がん検診を含みます婦人科につきましては、289件、全体の7.1%前年比45.2%の増になっています。予防接種が53件、全体の1.3%、前年比-11.7%となっております。この予防接種の減につきましては、インフルエンザが12月末までに流行期に入らなかったことが影響しているものだと考えております。入院人数は、247人でベッドの利用率は43.14%です。

続きまして、資料7です。各種教室の開催状況です。妊娠初期と後期の2部制で開催をいたしております、両親教室は30回、合計で229人の参加がありました。市からの委託事業であります、はじめまして赤ちゃん広場は、9回。82組の参加がありました。また市の産婦新生児等の訪問指導事業への協力として行っている新生児訪問につきましては、103件を実施いたしました。その他の教室につきましては、記載の通りです。以上です。

会 長 ありがとうございます。では、1から7までに関しまして、ご意見をよろしく願いいたします。昨年度から比べまして、少し減少している感じがいたしますね。これは誤差範囲じゃないかなと、私は思いますが、他にご意見ございませんでしょうか。前にお聞きしたかもしれませんが、資料7のスリング教室ってなんですか。

医師会 簡単に言うと、抱っこ紐の幅が広く、子どもをつつみ込んで、前で支えるものをスリングと言っています。特に早い時期の小さなうちは、両手が使えるというのと、前で顔を合わせられるという、いろんな部分で利点があって、うちではそれを勧めています。

医師会 いろんな種類があって、あのいわゆるメーカーが作っているものはそれぞれ微妙に形が違うんですけども、当院で使っているのは、布に金属のリングを付けた非常にシンプルなもので、それを使う指導を、当然入院中もやりますけれども、その他に別に教室を開いて、自分で使いこなせるように指導します。けっこう人気がありまして、申込みは多いです。

委 員 湘南鎌倉が、ピークからちょっと10%のシェアを落としているんですけども、何かあったんですか。ティアラがマイナス5%で、湘南鎌倉がマイナス10%で、そのまんま矢内原が17%ですもんね。

鎌倉市 特段これがという理由は、聞いてはいません。湘南鎌倉も、小児科など、運営が結構大変だというお話は、いろいろ聞いてはいます。

委員 そうですか。

会長 大船に、矢内原先生が開業されたということが大きいんじゃないかと思います。

委員 まあ、そうですか。

委員 平成 27 年度はいい成績を出していただいたと考えていいのではないかと思います。多少減っているのかもしれませんが、パーセントで言ったら、平成 26 年の 13 と、同じぐらいですし、湘南鎌倉が減ってるのに、ティアラが減っていないので、それなりの評価を得ているんじゃないかという気がしますし、資料 4 でも、その次年度ですか、次年度のこの予約状況というのが、本物であれば、場合によっては、平成 27 年度より、より良い数字になったり、まああのいっぺんに回復、その元へ戻るといえるのか、総分娩数が、ずっと順調にというのか、下がってるわけですよ。たぶんこれは、平成 25 年で、資料 2 だと 1172 で、26 年で 1,102 で。平成 27 年で、どれくらいになるんですか。1,100 くらいになるんでしょうね。その中で、考えると一定の患者さんをちゃんと確保していただいて、しかも、少なくなってくる傾向に歯止めがかかっているかのような数字に見えます。

会長 平成 27 年度で、何か新しい企画といいますか、何かされたんですか。

医師会 特に、新しい取組というよりも、今まで取り組んできたものをさらに回数を増やしたり、教室関係が多いんですけども、できるだけいろんな形で地域の方・市民の方に、私どもの産院を知っていただくという機会も含め、それと色々な意味で妊娠、あるいは妊娠する前、あるいは産後のケアも含めて、いろんな部分で関わりを持って、ティアラかまくらを市民の中に広めて行きたいという思いでやっていますので、そういう部分で少しずつは評価につながってる部分があるのかなと我々としては考えております。

委員 施設の面で、この間ちょっと矢内原先生のところへ行き、見せていただいたら、施設とか設備とか違いますよね。入った時の雰囲気とか、何かホッとするような水があって、そういう雰囲気の病院になっているのですが、ティアラはそういう部分では、たぶん比較したら辛い。もっとソフト面で、ティアラはこれだよ。という特徴を出さないと、見た目だと移動するんじゃないかなという思いが、この間しましたので、是非ティアラの一番の目玉は、どういうところというのを我々市民として、PR したらいいでしょうか。

医師会 非常に一人一人に寄り添ってという言い方をしているのですけれども、いずれにしてもその細かいところまでスタッフが付いて気を配ってあげるといって、そういうのは特徴だと思います。それと、先ほど言いましたように、分娩ということで捉えるのではなくて、自然の流れの中で関わればよいと思っておりますので、そう言った意味では各種教室

につきましても、単に分娩ということに囚われないように、もう少し幅広く取り組んで、それがスタッフの意識も当然ながら向上することに繋がって、患者さんといえますか、その妊産婦さんに対しての接し方も向上するのではないかという風に考えております。

委員 利用された方のアンケートというか、感想は依然としていい感じですか。

医師会 はい。ほとんど悪いことは書かれてないですね。みなさん不安で来ると思うんですけどもその中で、ティアラの助産師が励ましたり付き添ったりという、そういうことに非常に感謝してくださる方が多いですね。どこでも同じようにやっていると思うんですけども、そういう部分では他には負けないぞというそのくらいの気持ちで、取り組んでいて職員の意識はそこにあると思います。

会長 個人の施設は、矢内原先生もそうかもしれませんが、普通の病院とは全く違った雰囲気です。患者さんに丁寧にとすることは、どこも力を入れてやっているとします。

医師会 新しい施設で元々それを意図して、目的として作っていますので、そういう部分では、施設の面では敵わないところがあるかと思えます。それを補うには、スタッフのそういう妊婦さん産婦さんに対する心がけと言います、そういうことかなと。ですから、評価としてはアットホームで家族的な雰囲気。それで建物は古いんですけども、綺麗だという評価は頂いています。そういう部分について清潔感とか温かさを、できるだけ強調できるように、感じていただけるような仕事を心がけています。

委員 今あのお話しいただいてることは、すごく良いことだと思うのですが、その新しくできたところは、要するに見た目と言いますかね。アイキャッチングな構造にして、あそこ新しくできたから行ってみましょうっていうイメージで最初集客能力がある訳です。それに対して今、お話があったような、寄り添ってとか、そういったようなキーワードで運営しているのも、それで大変素晴らしいことで、本来あるべき姿だと思います。問題は、それをどうやって宣伝するかだと思います。今の話は、職員がみんなそういう気持ちになっている、そういう気持ちになってやるように指導しているというお返事をきったと思うんですけど、そうではなく、もっとポジティブに鎌倉市民の方に、そういう意図があるんだっていうことを知ってもらう為に、どういうパブリシティ的な活動を行うかっていうのを考えていくと良い。きっとその新しくできたところの綺麗さは、だいたい3年ぐらいたれば飽きてくるという、表現が悪いのですが、新しさの感じは終わる訳ですから、そういう時に、今言ったようなことで地道な活動を続けているから、なんとかなにかいい宣伝媒体を通して行った方が良いでしょう。何かないですか。

医師会 日常的な宣伝は限られた予算で、そこに資金を投入するというのもありますので。

最低限のものとしては、公共的な市の広報かまくらと医師会でやっている衛生時報にうちでやっているその教室関係が、次はこういうのがありますよと毎号載せるという部分と、新しい情報があれば載せています。それからあとは一般の方の目に触れる分も限りがありますが、京急バスの鎌倉営業所のバス 10 台に、一番目立つ運転席の後ろに電飾の広告板を付けています。これは継続してもう 3 年目になります。あとは、医師会の持つケーブルテレビの枠で、また新しい企画でビデオを撮って流そうというのがあります。できるだけ経費を使わずにとなってしまうのですが、そういった意味で、いろいろな、いいアイデアがあれば逆に取り組んでいきたいと思っています。

委員 先程、言っていたアピールする手段などは、まだ企画の段階で医師会では決まっているものではないですが、歯科医師会、薬剤師会と医師会と協議会を作っておりまして、年に 1 回～2 回、フェスティバルを開催しています。医師会は、いろんな科の先生がいますからティアラも使ったり、それから近くに生涯学習センターがありますので、そういうところを使って、なるべく日曜日に骨密度を測るとか血圧測るとか、そこで集客して、一緒にティアラも宣伝できればと考えています。

会 長 お産をどこでするか決めるときは、やはり口コミが多いんですね。あそこは親切ですとか、あそこでよくやってくれたとか。口コミを大事にするには、患者さんを大事に扱うってことですけれども、それから、資料 7 を見ますと新生児訪問も、このうちのティアラを宣伝するには非常にいい手段じゃないかなと。これは、ティアラで産まれた新生児だけじゃなくて、全体的に見ているんですね。

医師会 基本的には、ティアラで産まれた子です。

会 長 ティアラだけですか。他で産まれて、例えば、実家でお産して里帰り、こっちへ戻ってきた子供なんかも面倒見るとか、何かそういうことはしてない。

医師会 私どもの方では、そこまではやってないです。

会 長 産まれたばかりの子供をどう扱っていいかわからない、実家でお産してこちらへ帰ってきたけれど、どこで相談していいかわからないというような人に対して、第二子とかを面倒見るとか、あそこは産まれた後も、よく面倒見てくれますよ、っていうような口コミになると思うんですね。

医師会 はい。そういった狙いもあって、今は、従来は私どものところで分娩した方が対象だったものを広げて、他院での分娩者についても、母乳外来もやっておりますし、それから 1 か月健診についても、あの当然分娩なさったところの紹介状をお持ちいただければ、うちで診るということで、その辺は事業を広げるといいますか。対象を広げてやって

おります。

会 長 タウン誌か何かに広告出すのは、お金掛かるのですか。

医師会 タウン誌の場合には、何か行事をやって取材をしてもらって、記事として出してもらっています。通常の記事のように出すと、広告と同じで経費がかかります。

会 長 新生児訪問もやっておりますとか、里帰りで帰ってこられた方もどうぞご相談くださいとか、この新生児訪問でやると、二番目のお産が来るのではないかと考えられませんか。

医師会 うちのホームページもそうですし、ケーブルテレビをうまく使って、できるだけ新しい番組を作ってという風に考えているんですけど、なかなか素人が考えているので、ススッと行かないところはあります。それと先ほど委員が、おっしゃったように何かの機会を捉えてということで、平成26年の秋に満5周年を迎えました。その時には市民を対象に、映画とか催し物をして市民にアピールをしたつもりであります。今後もそういうイベントが出来たらなと思います。うちの産院の紹介ということで、見学募集をして、食事もこんなものが出ますということで。少しですけども試食会とか、うちの施設の説明、あるいはお産とはどういうものなのかも含めて、幅広くそういう人を集めて、説明会のような取り組みを昨年からはじめています。

委 員 両親教室は、ティアラを利用された方だけですか。

医師会 基本的にですね、この各種教室の中で、両親教室は健診に通ってらっしゃる方が、中心になっています。ただ、いろんなケースで、そこに限定せずに対応はしているつもりです。今は幅広く受け入れるような形で、両親教室もそうですし、赤ちゃん広場についても、できるだけ、地域での位置付けを出して行きたいというのがありますので、できる限り受け入れるように取り組んでいます。

委 員 この男の子のカラダ教室とかもそうですか。

医師会 そうですね。母と娘のステキな月経教室、男の子のカラダ教室、フューチャーマザーレッスン、この辺は特に市民対象と言いますか。私どもの患者さんに限定せず、広く市民の方、困ってらっしゃる方、あるいはこういうことが知りたいという方を対象に、やっております。

会 長 こういう教室をやっているということは、ティアラを受診する時に書いてあるのですか。もしそれで、当院で分娩された方じゃなくても、「ご心配な方はご相談ください。」って

書いておくとか。せっかくやっても、これが宣伝にならないと、少なくとも受診した人はわかるようにしないと意味がない。

医師会 衛生時報の欄には、教室の申込みはどなたでも大丈夫ですよという文は書いていますので、で、意外に衛生時報カラー版になってから特にそうなんですが、見る方が多いんですね。記事が出ると、すぐに申込みのお問い合わせがありますので、従前は、同じパターンをずっと繰り返し使っていたのですが、今は毎号毎号、新しい文章で内容も変えるようにしています。

委員 衛生時報をいつも見ている、おっ、また新しい事業やってるなって、もし時間があつたら行ってみたいなって思ったことが何度かあります。新しいことを試みていらっしゃることは見ております。

会長 お産を取り扱っておりますと、緊急事態が発生すると思うのですがけれども、いままでその緊急事態で、どうのこうのっていうのはございませんでしたか。帝王切開は麻酔科の先生も確保しておられるようですし、それから何か急変してどうのこうのとか、それが一番産科医だと問題になるのですが。何も特にそういうことはございませんでしたでしょうか。

医師会 いくつかやはり緊急搬送をしなければいけない事態は当然あります。しかし、重大な事故に繋がったということはないです。

会長 搬送するとすれば、どこへ送っているんですか。

医師会 多いのは、ティアラに近いということもあり、湘南鎌倉総合病院です。基本的には鎌倉は、県の周産期の緊急体制の中で、横浜ブロックに入っていますので、県のこども医療センター、横浜市大市民総合医療センター、基幹病院になっておりますので、新生児はこども医療センターの方に、妊婦さんは、市大の医療センターの方に、送ることが多いですね。近いところがいいというお話を聞くと、藤沢市民病院に受け入れてもらうケースが多いです。最近では、市民病院が多いです。

委員 とても事故なくやってこれたということは、すごいですよね。当たり前なだけで、とてもすごいことだと思います。産科は危険な分野なので、何かあってもおかしくはないですから。先生方とかスタッフの方たち、すごくがんばってらっしゃるので、何か具体的にお手伝いできることがあればと思うんですけれど。やっぱりPRの面でしょうかね。お手伝いするとすれば。

委員 どういうやり方が効果的なんでしょうか。

委員 テレビはどうか。

医師会 先程からいろいろ出ていますけれども、何か他の産院と違う、こんなことやってますよ、というものをテレビとか何かで取材的に取り上げてもらったりすれば、それはそれで非常に効果はあるのかなとは思いますが。

委員 医師会と市ががんばって作ってるっていうだけでも、珍しいことなので。

委員 どの所に人がいらっしゃるとお考えなんですか。どこに今後、成長の余地があると。それでやり方が違いますよね。

医師会 産院を利用する方へのアンケートで、どうしてここを選んだかというのは、一番はやっぱり便利・近い。便利だっていうのが多いですね。次にはやっぱり家族が、ここがいいよと勧めてくれたということです。近い所の人たちは、もう 100%この産科診療所に行くっていうぐらいの、そういう部分が狙えればいいなというのと、便利な場所にありますので、少し電車に乗って通うような方でも、大船の駅近くっていうのはまさに、実際にいらっしゃる方が多く、おりますので。そこは、また取り戻すということも可能ではないかなと思います。

委員 私も今、最後に言われた“取り戻す”というのがポイントだと思うんですけど、要するに新たなエリアというよりは、取られた部分を取り戻す発想でいいんじゃないですか。

委員 人数的にも大船が多いですね。

医師会 人口的にはそうですね。

鎌倉市 先程、お話にも出ておりましたけれども、まずそのティアラかまくらで出産された方々の地域の割合なんですね。平成 26 年度につきましては、この市役所周辺の鎌倉地区がだいたい 40.2%。腰越の方が 3.2%。深沢地域 10.5%。大船の方が 9.1%。で、玉縄地区 3.7%というような割合にはなっているんですね。あとは資料 3 の中でも、ちょっとお話をさせていただいたところではございますけれども、例えば、資料 3 の平成 26 年度の部分を見ますと、ティアラが年間 141 件、湘南鎌倉 289 件、矢内原が 209 件、ということですが、今のお話しの中にあつた「取り戻す」と言うのですか。そういった意味では、例えばここの中では鎌倉市民の方が藤沢市で出産された方が 98 人。横浜市で出産された方が 95 人。鎌倉市民の方が鎌倉市内の出産施設、ティアラとかで出産していただく。より多くの人に鎌倉で産んでいただく、その為にはいろいろと PR の方法を工夫し、地元にもこんないい所があるんだよっていうことを、一人でも多くの方に知っていただく、その

辺のところ、大きなポイントにはなってくるのかなとは思うんですね。どこで産もうかなと考えている方に、是非とも市内のティアラで、産んでいただけるというような。そういったところでは、先程、冒頭お話がございましたそのティアラかまくらの特色はなんなのか、という部分でのアピールも必要になってくるのかなと市の方でも考えているところです。

会 長 藤沢でお産してる人は、藤沢のどこでお産が多いんでしょうか。

委 員 藤沢市民病院です。

鎌倉市 藤沢市のどこの施設でということまでの把握は、できてはいないのですが、藤沢の徳洲会病院でも25床、個人病院でも19床のベッドを持っています。

会 長 藤沢徳洲会は辻堂になりますよね。

会 長 遠いですね。こちらから行くとなると、ちょっと遠いですよね。

委 員 栄共済はどうですか。

鎌倉市 栄共済病院は、今は分娩・お産はしてないです。今年の6月以降から、また出産・分娩を開始するというようなお話を聞いております。

会 長 湘南鎌倉も、矢内原先生も大船ですから、ここと向こうは住み分けできるんじゃないかと、僕は思ってるんですけど。先程もお話をしましたけれども、小学校でいけば「第一小学校」、「第二小学校」、「御成小学校」ね。それで、七里ガ浜、稲村ガ崎ぐらいまでこっちへ来るように、宣伝をすれば十分僕は住み分けをして行けるんじゃないかと思うんですけど。同じことを何度も言いますが、どこでお産するかというのは、非常に口コミが多いですから。口コミで選ばれるのが非常に多いので、それを大事にされた方がよろしいんじゃないかと思えますね。

(2) 平成27年度の収支（見込み）について

会 長 平成27年度の収支見込について、ご説明をお願いします。

医師会 はい。それでは平成27年度の本年度の収支の見込みでございます。資料の8になります。27年度の分娩件数は、当初予算で見込んでおりましたのが210件。ほぼ同じ数字になるのではないかと考えております。その分娩件数に大きく左右される自費入院収入が、上半期の実績、それから下半期の見込み数から、マイナス272万2千300円を超える数字になりそうです。ただ、他の診療収入が、当初予算を上回っておりまして、診療収入

全体でプラス 500 万円程度が出るのではないかと、思っております。これは婦人科診療による収入が増えたことが影響しているものだと考えております。支出につきましては、開設後 6 年を経過したことから、医療機器の保守点検、修理、設備の修繕等に、費用が出ておりまして、想定を上回っております。従って、事業管理費が、予算額を 680 万ほど上回ることが見込まれております。人件費につきましては、スタッフの退職等がございましたけれども、できるだけ補充については、控えるようにいたしておりまして、その分、人件費を抑えることができる見込みでございます。今現在、看護スタッフは 2 名減の状況でございます。結果としまして、収支の差額が 417 万 5,510 円プラスが見込まれておりまして、市からの運営費補助金の返還になるのではないかと考えています。以上です。

会 長 やっぱり土地・建物代が高いですね。これはもうどうしようもないのですけれども、市議会とか何かで何か意見を言われているようなことはございませんか。

鎌倉市 市議会におきましても、この産科診療所のあり方については、いろいろとご意見は頂戴しておるところでございます。平成 28 年度になります。湘南鎌倉総合病院でバースクリニックが、予定では今年の 5 月に開院します。あと、栄共済病院が 6 月から、分娩を開始するといった中で、どのような影響がティアラの方に出てくるのかを見極めながら、今後の対応を考えていく必要があります。ただ平成 28 年度につきましては、従来どおり市の方もティアラかまくらに対してのご支援はさせていただくということは前提としてございます。

委 員 消費税は、どんな感じだったですか。

医師会 そうですね。すごく大きく影響した感じではないと思います。産科の特徴なのでしょうかね。多少のお金はあまり気にしないという方が、まあ、非常に経済的にシビアな方も当然いらっしゃるのですけれども、全体的にやっぱり最後は緩やかな。

委 員 消費税分、値上げされたのですか。

医師会 消費税分として値上げはしていません。時期的にちょっとずれているのですが、分娩費用そのものを一律 5 万円アップする計画が出ていました。そういった中でさらに消費税分を上乗せするというのは難しかったので、その部分では消費税を理由にした値上げというのはしませんでした。

委 員 価格弾性は全然値上げしても変わらなかったですか。変わらないですね。

医師会 その部分の反応については、特にマイナスというのはなかったかなと思います。

委員 機械とかの更新というのはどうやっているんですか。どれくらいでどう償却されているんですか。

医師会 ほとんどがリースです。5年でリース期間終了して、再リースをかけています。引き続いて使用できるものを精査して再リースで10分の1になりますので経費の節減ができています。

医師会 やはり医療機器と言うのは日進月歩ですので、陳腐化した物については更新をして、それもリースで更新しています。従来から大きな物で更新したのが、開放型の保育器、非常に高いものですが、それとエコーを更新しています。

医師会 ポイントになるものだけは良い物、それはやむを得ないと思っています。そうでない物については、出来るだけ再リースを、1年ごとに再リースしていくことでやっております。

会長 矢内原先生のところでは、分娩 いくらくらいでやっているのでしょうか。

医師会 差はないと思います。ただ、細かいところのサービスで「これがあります」「これがあります」という部分が無料でなかったりということもあると聞いています。私どもはある意味、分娩費用の中に含まれます。例えばフットマッサージを産婦さんは退院の前にやっていますが、それも費用の中に込みで。分娩費用を上げた時にできるだけ喜ばれるサービスを増やそうとします。

会長 じゃ、トータルの費用としては同じくらいですか。

医師会 そうですね。ただ、その分、評判が良くなって好印象を持たれば、宣伝費用を考えたら、そういう意味では安いものではないかなとは思っています。

会長 湘南鎌倉、安いでしょう。

医師会 聞いている話では、値段はそんなに変わらないです。

医師会 安心を選ぶ人は、湘南鎌倉総合病院のような総合病院を選ぶと思います。ただ、やっぱり待ち時間が非常に長くて、健診に行くと半日仕事になる、そういう部分は大きな病院のマイナス点かなと思います。その点うちは、比較的予約も他所に比べると緩やかにしているので、待ち時間とか所要時間がある程度測れるのでゆったりと健診を受けられると思います。

委員 以前伺ったかもしれないのですが、委託料と賃借料と手数料が決算見込みのところが増えてるのは、どういったところなのでしょう。

医師会 賃借料は、先程言ったようにできるだけ再リースでという話がありましたけども、やはり修繕が必要な故障が生じた時に修理するのか、あるいは新しい物に買い替えるのかという部分での選択の中で、予算をオーバーしてきているというところがあります。それから、手数料につきましては、これはやはり小規模な修繕とか修理が結構増えてきている状況にあります。特に建物自体は、改装してからまもなく7年、建物自体がもう20年くらいなんですね。その本体に関わる小規模な修繕が頻繁に出てくる気がします。委託料は、いわゆる見込み違いの積算のミスですね。委託料でも結果と言いますか、実績に応じて支払う委託料がありますので、その部分の当初の予算における見込みの誤りですね。

委員 コストを切れるとしたら、どこを切れるんですか。

医師会 難しいですね。うちの特徴、その地域の中で公共的な意味合いを持って、施設を動かしていくという、人も切れないという状況にあります。というのは規模が小さいので、なかなか簡単に1割減とか2割減とかっていうのはやりにくい、人を半分に出来ないというのがありますし。それと、うちが売りにしているもうひとつは『安心して安全に』っていう部分は、やはり夜の体制もきちっとスタッフが配置されています。他の産院では1人夜勤というのが結構あるらしく、そういうところで人件費を削ってるのがあるんですね。うちは、夜勤はスタッフ2人体制でやっています。いつ何時分娩が進行するかわからないので、起こるリスクに対応できるようにしておくことが必要なので、院内で医師1名とスタッフ2名は常に確保しています。そういった部分は、うちのひとつの安心を与える為の材料にはなると思っているんですけども、各経費については十分検討して、節約できるところは節約していかなければという風には思っています。

委員 賃借料は、市の建物をお借りしているんですか。

医師会 民間の建物と土地になります、

委員 では、これ以上は安くはしてもらえないですね。

医師会 そうなんです。

委員 場所がいいですからね。

(3) 今後の運営体制等について

会 長 次は運営体制について、説明をお願いします。

医師会 今後の運営体制というよりも、現在のティアラかまぐららの運営体制について資料9ページでご説明します。平成28年1月1日現在の体制になっております。所長は常勤医師の高山でございます。就任してから3年と8か月になります。医師の外来診療につきましては、高山所長の他に非常勤医師6名が担当をしております。内訳は、産婦人科医師として慈恵医大の佐藤陽一医師、川畑医師、野口医師、横浜栄共済病院の加藤医師と土居医師、小児科の1か月健診を担当しております横浜市大の佐藤医師です。病棟は外来に当たっていない所長と非常勤の産科の医師で、交代で担当をしております。当直は非常勤の医師に担当をいただいております。帝王切開に際しましての麻酔の医師は、東京麻酔グループに委託をいたしております、吉野代表他21名の麻酔科医師の中から派遣されて参ります。看護スタッフは23年度当初は師長1名、常勤助産師9名、常勤看護師3名、非常勤助産師6名の体制でやっておりましたけれども、現在は常勤助産師が9名、常勤看護師が2名、非常勤助産師7名 内1名は育児休業中です、非常勤看護師2名の体制で運営をいたしております。外来については、助産師・看護師の常勤2名それから非常勤1名が交代で、病棟は助産師・看護師の常勤2名が、夜勤は助産師・看護師の常勤2名が担当します。新生児訪問については、常勤・非常勤の助産師が交代で週に1回訪問することになっております。両親学級は、常勤助産師・看護師が月2回合計4回行っております。はじめまして赤ちゃん広場については囑託の先生をお願いをいたしまして、月1回ティアラかまぐららの待合室を使って行っております。その他の各種教室につきましては、スリング教室は看護師・助産師のスタッフが行っておりますけれども、それ以外につきましては外部の講師に依頼をいたしております。事務員につきましては常勤が2名 内1名は今育児休業中です、非常勤2名で運営をいたしております。以上がスタッフの体制でございます。それから、今後につきましては、先ほどから質問等にお答えする形で答えさせていただいておりますけれども、やはり平成21年の開設以降、藤沢南部地域にも複数の分娩施設ができて、それから25年の9月に大船に12床の施設が新たに建設され、さらには山崎に徳洲会が17床の産科診療所バースクリニックの開設が予定されていると聞いておりますし、横浜栄共済病院も今年の6月から産科を復活させたいと言っておりますので、やはり社会全体として出生数が増えている状況にない中で厳しい状況は続いているのかなという風に考えております。そういう中でも25年からそういった状況を踏まえて、出来るだけ分娩数の確保に繋げるようなサービスの充実や、事業の利用者の満足度向上、あるいは事業の内容を見直すということで取り組んでおりますけれども、そういった事柄を今後も引き続いて進めて参りたいと思っております。やはり分娩施設を選ぶ基準というのは通院のしやすさとか、あるいは家族・友人・知人の勧めとか、あるいは診療の内容も含めた評判というのが非常に大きなものを占めてると言っていると思いますので、そういった部分で私どものいろんなサービスあるいは教室等を通じて、ティアラかまぐらが地域での産院として高評価が取れるような取組を進め

てまいりたいと思います。以上です。

会 長 お産を取り扱うという事を考えてみますと、やはり医師にしても助産師・看護師にしても、これだけの人数を揃えなければならないという事は、非常にお金のかかる仕事だと思うのですが、やむを得ないのでしょうか。

委 員 体制はもう今は安定しているのですか。

医師会 そうですね。今、確かに非常勤の先生は、もとの所属の状況に左右される部分もございますので、そういった意味で安定しているかと言うと必ずしもそうではないとは思いますが、現在のところ、慈恵医大の方の協力も得られてこういう体制でおりますので、比較的このところは安定した状況ではあります。ちなみに横浜栄共済の先生お二方が当直と外来を週に1回受け持っているのですが、先程お話した6月以降についても、引き続いてこの体制でいいというか、迷惑はかけないというお話を伺っています。

委 員 良かったですね。

医師会 栄共済も、地元の横浜の栄区あるいは港南区という所をターゲットにするということですので、そういった意味では協力しながらやっていきたいと思いますという話にはなっています。

会 長 何かご意見ございますでしょうか。

会 長 色々言う人には今のお話をいただく他ないですね。医療というのが儲からない、これだけ赤字になるのが現状なんですって事を。鎌倉市民のために、安心してお産していただくためには、これは市の出費として勘弁してほしいと言うしかないんでしょうね。他にございませんでしょうか。

4 その他

会 長 では、最後のその他に関しまして。

鎌倉市 事務局のほうからは、特にはありません。次回の開催時期についてお伝えします。平成27年度の決算総括決算状況と併せて資料をご用意しております。開催時期につきましては、7月の下旬を考えております。また、詳しい日にちにつきましてはご連絡させていただきますので、少々お待ちください。

鎌倉市 本日はありがとうございました。冒頭に、会長の方からお話を頂きました辞任についてですが、次回の運営協議会の時に会長からの辞任届けを受理させていただいて、あと

正式な形での会長の選出を次回の会議の中でやらせていただければと思っておりますので、その節は宜しく願いしたいと思います。ありがとうございました。

一 同 ありがとうございました。